# 第2回インフラメンテナンス郡山フォーラム ～地域のインフラは地域で守る～　開催結果

○２月20日(火)、郡山市主催(日本大学工学部共催、ｲﾝﾌﾗﾒﾝﾃﾅﾝｽ国民会議等後援)で第２回目のﾌｫｰﾗﾑが開催された。(第１回目は昨年６月、国土交通省主催の「ｲﾝﾌﾗﾒﾝﾃﾅﾝｽ国民会議自治体支援ﾌｫｰﾗﾑ」として実施)
○今回のﾌｫｰﾗﾑでは、基調講演やﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝを通じ他市の先進的取組等を学びながら、ｲﾝﾌﾗﾒﾝﾃﾅﾝｽの現状や課題等について、産･学･官･民の各立場から議論を深めた。

## 開催概要

〈プログラム〉
郡山市長挨拶、基調講演(２名）、話題提供(３名)、ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ(ﾊﾟﾈﾗｰ等７名)
〈参加者〉１６７名（講演・発表者等７名、自治体53名（郡山市他４市町村、福島県）、民間企業・地元町会等103名、国土交通省４名）

| 講演者等 | 講演・話題提供の概要 |
|---|---|
| 講演①富山市<br>建設技術統括監<br>植野 芳彦 氏 | 演題：持続可能な橋梁ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの実現に向けて ～富山ｽﾀｲﾙ～<br>耐震化の遅れ、官民の技術力不足、そして迫りくる人口減・財政難により事態は深刻。この緊急時には自治体･国･大学･企業･市民等の連携で総力戦で当たるべき。今後の自治体には効率的な「事後保全型」の管理が重要ではないか。 |
| 講演②周南市<br>建設部道路課<br>今井　　努 氏 | 演題：共　Do！で繋ぐ私たちの未来<br>ｲﾝﾌﾗの現状に危機感を抱いた有志で始めた「橋守活動」を展開中。誰でも･どこでも･簡単にできる橋の清掃や簡易点検に小さな「楽しみ」を加えた体験型活動を通じて、地域住民にｲﾝﾌﾗという財産を皆で守る大切さを伝えている。 |
| 話題①日本大学<br>大学院<br>浅野和香奈さん | 演題：「橋のｾﾙﾌﾒﾝﾃﾅﾝｽふくしまﾓﾃﾞﾙ」の構築と実践<br>橋を簡易点検できる「ﾁｪｯｸｼｰﾄ」や、橋の情報や道順等がﾊﾟｿｺﾝ･ｽﾏｰﾄﾌｫﾝで確認できる「橋ﾏｯﾌﾟ」を独自製作し、お金をかけずにできる官民連携の取り組み等を提言。現在複数の自治体等において、予防保全型の橋梁管理に活用されている。 |
| 話題②ニチレキ<br>株式会社<br>黄木 秀実 氏 | 演題：小規模補修材の試験施工に関する説明<br>道路舗装のひび割れは、長期間放置しておくとﾎﾟｯﾄﾎｰﾙ（穴ぼこ）となり、車両走行に支障をきたす。よって、ﾎﾟｯﾄﾎｰﾙが発生する前の予防保全が重要。社では現在、常温・簡単施工･長寿命の補修材を開発中(郡山市で実証実験中)。 |
| 話題③国土交通<br>省総合政策局<br>安原　　達 氏 | 演題：ｲﾝﾌﾗﾒﾝﾃﾅﾝｽ国民会議<br>ﾌｫｰﾗﾑの開催を通じたﾍﾞｽﾄﾌﾟﾗﾃｨｽの横展開(民間参画･技術活用、地域住民の人材育成等)、自治体による技術探索と現場試行のﾏｯﾁﾝｸﾞ、自治体ｸﾞﾙｰﾌﾟによる課題解決の取組(共同研究等の横展開)が、今後ますます重要となっていく。 |

郡山市長挨拶　品川 萬里

○ｲﾝﾌﾗや建物も人間と同じように長寿命化が大切。
○様々なﾃﾞｰﾀが入手できる時代であり、より多くのﾃﾞｰﾀを活用し、つき合わせていくことが課題解決につながっていく。

基調講演

ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ

**ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ**（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ:日本大学工学部教授岩城一郎氏）
◎ﾊﾟﾈﾗｰへの質問「'地域のｲﾝﾌﾗを地域で守る'ための'ｷｰﾜｰﾄﾞ'は？」
植野芳彦氏「'愛郷心(愛橋心)'を根本に持って活動していきたい」
今井　努氏「行政や技術者だけでなく地域全体で'共に'取り組みを」
浅野和香奈さん「活動や教育でｲﾝﾌﾗﾒﾝﾃﾅﾝｽの認識の'種まき'を」
黄木秀実氏「'あたたかい気持ち'で地域と協力し合っていきたい」
安原　達氏「自治体が連携し'取組の輪'として立ち上がるべき」
郡山市道路維持課 今泉勝生課長「地域と共にまず'１%の行動'から始め、そして継続させていきたい」
岩城一郎氏「例えﾘｽｸがあっても信念と勇気で取組を始めるべき。抵抗があっても連携と交流、支え合いにより乗り越えられる」